



Japan Intellectual Property Association

理事's eye

阿部 仁 日本知的財産協会 副理事長
三菱ケミカル株式会社 知的財産本部長

わが社のこだわり

株式会社ニデック

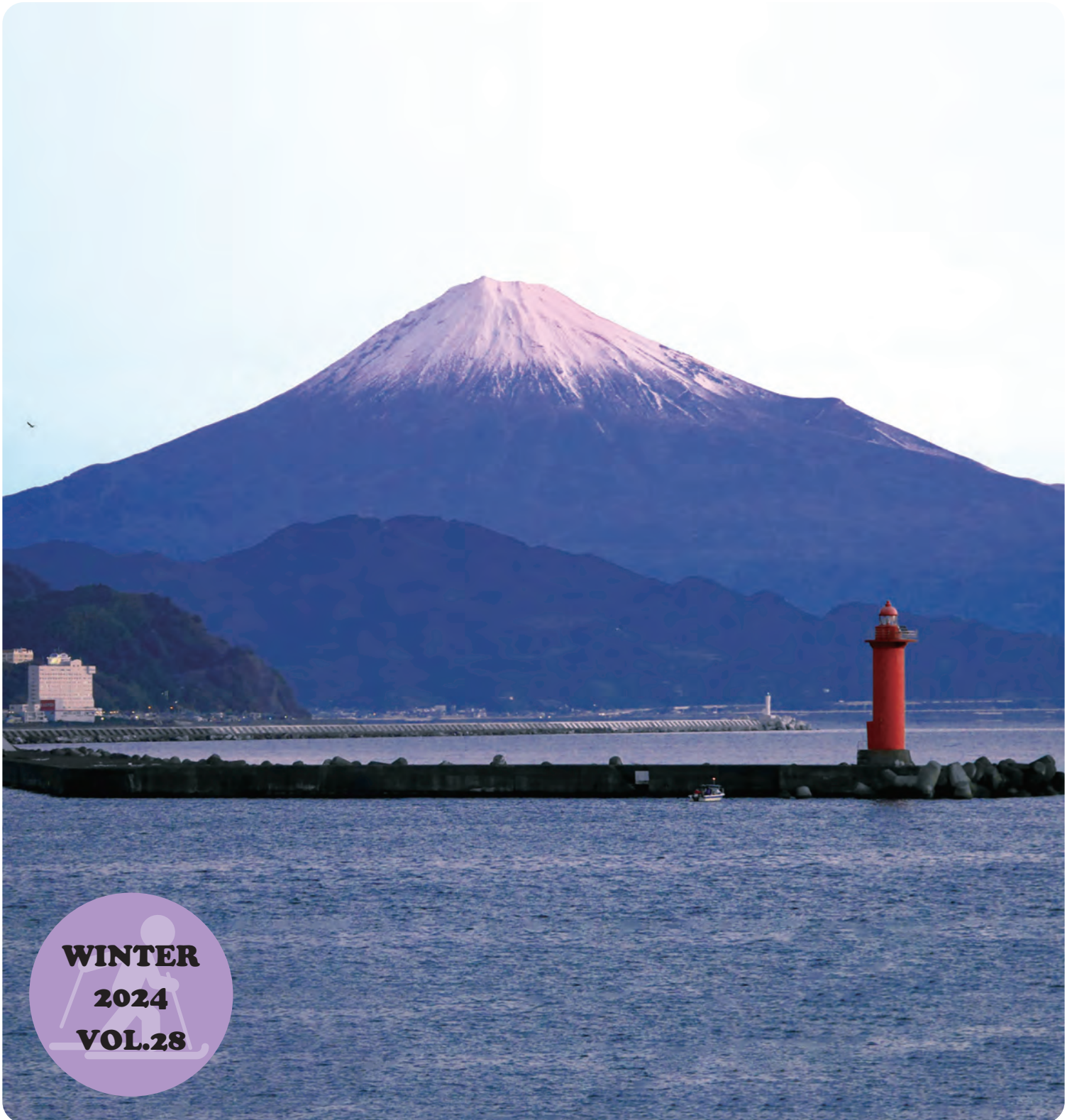
未来を共創し、価値を守る

ZOOM UP

マネジメント第1・第2委員会

JIPA通信

JIPA知財シンポジウムの告知



WINTER
2024
VOL.28

知財人材育成のエコシステムとしてのJIPA

JIPAは基本方針の一つに「人材の育成」を掲げています。具体的には、JIPAでは様々な研修を用意し、会員の皆さんに学びの機会・成長の機会を提供しています。その中には、知財専門家としての知識・スキルを向上するためのコースや、知財に強い技術者を育成するためのコース、グローバルな知財スタッフを育成するためのコース、さらには経営的視点を持つ知財リーダーを育成するためのコースなどがあり、それぞれのコースの中にはまた複数の講座が用意されています。各種の話題に関する臨時研修や、会員のニーズに合わせたカスタマイズ研修などもあります。受講者総数約14,000名、コース数約150の世界最大規模の知財関連の研修プログラムです。

このように、JIPAは研修の提供により会員の皆さんの人材育成を支援していますが、加えて見逃してはいけないのは、JIPAのその他の活動を通じた人材育成だと思っています。JIPAの各種の部会（東西部会や業種別部会等）や、専門委員会、ワーキンググループ等の活動は、勿論人材育成それ自体を目的としたものではありませんが、それらに参加して、異なる組織に属する人たちと議論し、一緒に悩み、解決策を見出していくことによって得たものは、会員組織内での経験や研修だけでは得ることのできない貴重なものです。それは、自分の所属組織を相対化することで得られる学びや気づきであり、例えばものの考え方や世界観であったり、知財をどのように企業経営に活かしてい

くかという視点・視座であったり、また自分の所属組織をどう変革すべきかのヒント・きっかけであったりします。自分自身、2020年にJIPAの理事に就任し、色々な人に出会い、語り合ってきました。そこで得たものは、自分自身の成長につながる貴重な財産になっています。

JIPAの研修その他の活動を通じて各人が成長する、そしてそれらの人たちが自分の所属組織でそれを活かしつつ、JIPAの活動にも参画することでJIPAの活動がレベルアップしていく、言ってみれば、このようなある種のエコシステムができあがっていると言えるかもしれません。我々は、この誇るべきエコシステムをこれからも維持・発展させていく必要があると思います。



「JIPA理事としての視点」 「知財部門のリーダーとしての視点」 2つの視点で深掘りする知財業界の今

阿部 仁 日本知的財産協会 副理事長
Hitoshi ABE 三菱ケミカル株式会社 知的財産本部長

今こそ一層の知財人材の育成強化を！

上において知財人材の育成についてのJIPAの役割について述べましたが、組織の存続や発展のためには人材の育成が重要なのは言うまでもありません。自分は、知財部門においては、特に人材育成が重要だと考えています。それは、知財部門においては、組織のパフォーマンスを決める複数の要素（一般に、保有する設備や権限、周囲からのレピュテーションなど色々あると思います）のうち、人材の要素が他の組織に比べて高いと経験上思うからです。即ち、人材の育成こそが、知財部門のパフォーマンスを決める最も重要な要素であると言えると思っています。

一方で、知財人材を育成することはそれほど簡単ではないとも思います。数十

～百名を超えるような巨大な知財部門においては、その組織の中で人材を育成する仕組みや習慣、環境があるかもしれません。しかしながら、多くの知財部門ではそのような状況にない場合もあるのではないのでしょうか？

しかも、VUCA(Volatility・Uncertainty・Complexity・Ambiguity)と言われる状況は知財の世界でも全く同様であって、AIの急激な発展、デジタルコンテンツの爆発的な増加、サステナビリティ対応、知財投資の情報開示、データ保護とセキュリティ、経済安全保障等々、知的財産の課題は多岐多様になり、しかもそれが過去にはない速度で変化しています。知財部門は、ある特定の領域・スキルを有する同質な人材を多数集めるというよりは、

様々なバックグラウンドやスキルを有する人材（及びそれを上手く組み合わせ活用できる人材）、即ち、一律ではない多種多様な人材の育成が必要になってきています。

このような状況を考えると、知財部門においては、知財人材の育成に一層力を入れる必要があるのではないのでしょうか？知財人材の育成という観点だけでなく、知財人材の獲得（採用）や人材に関する全社的な方針・施策なども絡めた、より総合的な対応が求められてもいます。簡単ではない課題ですが、最も基本的な課題だからこそ、知財部門のリーダーは今こそさらに知恵を絞り、時間をかける時なのだと思っています。

わが社のこだわり [株式会社ニデック]

未来を共創し、価値を守る

石井 友也 Tomoya ISHII

株式会社ニデック 薬事法務本部 知的財産部 知的財産課 課長



眼屈折力測定装置



株式会社ニデックは、光学とエレクトロニクスの融合により眼科医療の発展に貢献したいとの考えから、1971年に創業をしています。創業25周年を迎えた1996年に、人類の健康維持に携わり、平均寿命を延ばし、健康で快適な生活を提供したい、との想いをもち、目だけでなく身体全体に関わるように、事業領域を拡大しています。いつの時代も存在意義のある企業で在り続けるために、「Eye & Health Care」を核とした事業をグローバルに展開するとともに、国内外の法令の遵守はもとより、高い倫理観と公平性を持って行動し、持続可能な社会の発展に貢献することを念頭に置いて事業を推進しています。「Eye & Health Care」のリーディングカンパニーを目指して、製品やサービスを通じてお客さまへソリューションを提供し続けていきます。

株式会社ニデックの取り組み

株式会社ニデック(以下、ニデック)では、1971年の創業以来、「見えないものを見えるようにしたい」、「見えたものを認識できるようにしたい」、「眼に関する優れた機器を作りたい」という想いのもと、医療、眼鏡機器、コーティングの3つの分野に事業を展開しています。また、事業を行う上で3つのアイ(気概・違い・世界)を基本姿勢として大切にしています。

株式会社ニデックの知財活動

知財部門では、「違い」につながる戦略を経営陣・事業部門に提案するとともに、知財研修の整備など、イノベーションに向けた風土を醸成しています。

2017年~2021年にかけては、「知財管理型から知財企画型(提案型)への転換」を知財中期ビジョンとし、IPランドスケープに代表される攻めの知財活動を推進し、従前の権利化・クリアランス等の守りの知財活動との両立を実践しています。2022年より新たな知財中期ビジョンとして「未来を共創し、価値を守る"知財 CHIZAI"」を設定し、攻めの知財活動を通じて社内外の組織と一緒に未来を共創すると共に、共創によって生み出された価値を、守りの知財活動を通じて守っていく知財戦略を実践しています。本知財戦略では、知財部門が戦略企画部門として経営を支援する経営参謀を目指し、経営の意思決定に知財を活用していくことと、マーケティング視点/顧客の理解を深めて顧客に対する独自の価値提



供について知財部門も積極的に関与していくことを骨子としています。

これらの知財活動が評価され、令和5年度「知財功労賞」において、「特許庁長官表彰」を受賞しています。今回の受賞は平成16年度の「経済産業大臣表彰」に続き、2回目の受賞です。本受賞においては、事業部門の状況戦略に応じた知財活動方針をまとめた知財経営シートや明細書内製化が評価されています。知財経営シートを経営陣・事業部門と共有し、議論を行うことで、知的資産価値の最大化を目指しています。知財経営シートの作成にあたって、IPランドスケープの結果などから、各部門における知財活動のあるべき姿を設定し、バックキャストで出願戦略や保有権利更

新戦略などの知財活動方針をまとめています。

また、ニデックでは、明細書の多くを内製によって作成しています。明細書・中間処理などを内製することで、特許の価値を見極める目利力を磨き、価値の高い特許を創出しています。また、内製化を通して、外部特許事務所の目線で特許のクレームを作成・解釈する法的スキル、製品の現在と未来を事業部門と語り合えるコミュニケーションスキル、時代の先を読み提案を行える妄想力・仮説提案力、を醸成しています。

JIPAとの関わり

ニデックでは、JIPA 専門委員会への参加や多くのJIPA研修の受講によって得た、知識やネットワークを知財活動や事業活動に役立てています。JIPAは、知財の多くの困り事に対してアプローチできる知財の砦と考えております。引き続き、JIPAには、技術進歩と我が国の産業発展のための取り組みを推進いただきたいと思います。

知財経営シート

知財経営シートは、各部門における知財活動のあるべき姿から、バックキャストで出願テーマや出願件数などの知財戦略を検討し、可視化したものである。

↓

事業部門の状況・戦略に応じた知財活動方針を策定し、知財企画型を体现。

知財活動の可視化(知財経営シート)

2024年度	開発部署	戦略的特許出願	保有特許更新戦略	クリアランス
【出願方針】	【中長期知財戦略テーマ】	【国内】	【海外】	【共有研究先】
● 新規知財出願発明特許を提案する。	● 2020年: 新規発明特許 ● 2021年: 1件出願 ● 2022年: AI	● 実施例が50%程度であり、権利期間5年未満。本事業領域については取組方針を再考する。	● 実施例が50%程度であり、権利期間10年未満。本事業領域において取組方針を再考する。	● 株式会社A社(2020年7月) ● 株式会社B社(2021年5月)
【出願計画】	【短期知財戦略テーマ】	【3つの可視化】		
● 自部門内特許、出願件数 ● 自部門外特許、出願件数	● 注力領域: ... ● 注力領域: ...	1. 自社出願可視化データ	2. 他社出願可視化データ	3. 市場可視化データ
【開発ロードマップ】	【開発方針】	出願方針、出願件数、出願テーマを明確化。期初に事業部門(主に、開発部門)と共有し、擦り合わせ。事業における技術優位性の確保を確実に。		
● 新規特許出願件数 ● 新規特許出願件数	● 2021年: DR3 ● 2022年: Patent DR	● 特許出願件数/出願件数	● 特許出願件数/出願件数	● 特許出願件数/出願件数



マネジメント第1・第2委員会

前川 武之 (写真左)
Takeyuki MAEGAWA

日本知的財産協会 マネジメント第1委員会 委員長
三菱電機株式会社 知的財産センター 特許企画部
主席技師長・担当部長

大谷 憲一 (写真右)
Kenichi OTANI

日本知的財産協会 マネジメント第2委員会 委員長
花王株式会社 知的財産部 主席部長



Change! Challenge! Manage!! 時代に応じた「経営に資する知財マネジメント」を探究します

マネジメント委員会は第1・第2の2つの委員会が一体となり、常に世の中の動向を捉えることを心掛けながら、「知財が如何に経営に資するか」を一貫して探究してきました。2023年度は、総勢約70名超のメンバーで“ゲームチェンジ”や“ESG経営”、“ジョブ型雇用”など、知財マネジメントに携わる者であれば誰もが関心のある8テーマについて研究を行っています。また、年2回開催する全体会議では8割を超えるメンバーが現地参加し、対面での充実した意見交換・人脈形成を通じて、8テーマの研究を全員で共有・仕上げていく意識で活動を進めています。

最近では、会社で日頃マネジメント実務を行っているマネージャー層に限らず、将来のマネジメントを担う若手の参加も多くなりました。マネジメント委員会では業種・役職・年代を超えた一体感ある活動を体験することができ、知財マネージャーの人材育成の場としても重要な役割を担っていると自負しています。

2024年度も“生成AIの知財

マネジメント活用”や“企業価値向上”、“知財KPI”など、ホットな研究テーマを取り上げる予定です。マネジメント委員会への引き続きのご支援・ご参加をどうぞよろしくお願いいたします。



2023年度第1回マネジメント委員会 全体会議 (6月開催@富山)



岡本 貴洋
Takahiro OKAMOTO

日本知的財産協会 常務理事
サントリーホールディングス株式会社
ものづくりCoE本部 知的財産部長

ご縁があつてマネジメント委員会に、2009年度より委員6年、副委員長4年、委員長3年、担当常務理事1年半の合計14年半の間、お世話になっております。マネジメント委員会は一言でいうと『面白い』委員会です。時流に沿ったテーマ検討や趣向を凝らした委員会運営によりダイナミックな研究・提言活動ができるとともに、なにより能力高く個性的で魅力的な人財の宝庫である点だと思います。皆さんも生涯の友人・知人・飲み友達を見つけてみませんか！

JIPA通信 JIPA知財シンポジウムの告知

2月22日(木)、第23回JIPA知財シンポジウム「**シン時代の新知財～高まる期待に応えさらに飛躍する新たな知財の未来～**」を**パシフィコ横浜**で開催いたします。初の試みとして、専門委員会委員長による座談会を予定しています。さらに、理化学研究所 山本貴史氏により「理化学研究所が標榜するイノベーションの将来像」のご講演、スタートアップ企業を交えて、「シン時代の新知財」に向けての取り組みを語っていただくパネルディスカッションを企画しています。

新たな知財の未来について、横浜の地で皆さんと一緒に考えていくシンポジウムにしていきたいと考えています。

応募詳細はJIPA ホームページをご確認ください。



表紙の写真は…

「富士山への想い」

JIPA事務局 国際制度調和グループ
永野 大介

写真はある年の元日早朝、清水港の風景です。まもなく富士山が初日の出に赤く染まり、皆が新たな年への願いを込める瞬間が訪れます。古くより多くの人に愛されてきた富士山は、その名称やデザインを用いた意匠や商標が数多く登録されています。では特許は?と調べてみると、「富士山形状」等の表現が明細書に登場し、「富士山」だけで特定形状をイメージできるのかと思うと、日本人の「富士山愛」に微笑ましい気持ちにもなります。ただ外国出願時この表現は?…と少し心配にはなりますが。

本誌では、季節感があり、技術、特許、知財に関連がある表紙写真を募集しています。写真と説明文を**会誌広報グループ**kikansi@jipa.or.jp宛てにお送りください。また、取り上げて欲しいテーマがあれば、お気軽にご連絡ください。

季刊じば Vol.28
WINTER 2024
2024年1月15日発行

編集人： 一般社団法人 日本知的財産協会 会誌広報委員会
発行人： 一般社団法人 日本知的財産協会内 上野 剛史
https://www.jipa.or.jp/kikansi/jipa.html
印刷&DTP： NPC 日本印刷株式会社